

拡大版

地域おこし協力隊通信

地域おこし協力隊の一員となって1年が経ちました。
メンバーがこれまでの思い出と今後の意気込みを語ります！

中川知香さん



洞爺湖町に移住して1年。大勢の素敵な人に巡り会い、町の美しい景色と同じくらいに人の温かさや優しさを感じた1年でした。

配属先のとうやマルシェでは、地元のおいしい食材に触れる多くの機会がありました。コロナ禍で旅に来る人が少なかった分、食材の魅力発掘や撮影、PR、商品開発などに時間を取れました。

この時期は、特に情報整

理とWEB発信を心がけ、ふるさと納税の情報更新を進めて前年度の約3倍の商品をお届けできました。食べてもらうことで洞爺湖町に来たいと思う人が増えるとうれしいです。

この1年、本当に温かい人々の中で活動でき、感謝でいっぱいです。今後は、洞爺湖町での新事業の立ち上げなどに力を入れたいと思っているので、よろしく願いいたします！

折原英明さん



洞爺湖町に来て早いもので1年になります。この1年はコロナ禍で協力隊活動もさまざまな面で制限されました。イベントも中止となり、地域住民の皆さんとの関わりや、協力隊活動を伝える機会が少ないと感じています。

そんな中、更新頻度が少なかったSNSの情報発信を強化しました。フォローも着実に増え、洞爺湖町について知ってもらえる

ようになったと思います。また、広報を見た地域の人々から声を掛けてもらえるようになったのは嬉しい限りです。

最近では町内事業者の取材で僕自身も知らない町の良さを知るきっかけをもらえました。今後も商工会事業所支援と地域情報発信を軸に、また新たな気持ちで2年目の協力隊活動に取り組んでいきます。

佐川千明さん



町内のお店や施設、農家の取材などを通して洞爺湖町について学び、たくさんの魅力に触れられた1年目でした。主に情報発信を担当していますが、洞爺の豊富な野菜や豆などを使って実際に自分で料理して紹介するなど、私自身も楽しみながら活動しています。

活動拠点であるとうや水の駅では、洞爺自慢の美味しいお米「財田米」をたく

さんの人に食べてもらうきっかけになればと商品化したミニサイズの財田米は、観光客を中心にたくさんの方に買ってもらえました。

今後は更に視野を広げて新しいことに挑戦し、定住に向けた活動にも取り組みながら、引き続き洞爺湖町のPRに努めていきたいと思っています。

室田崇行さん



洞爺湖の冬の漁ではヒメマスとワカサギが獲れます。ヒメマスはその時期の水温にもよりますが、12月から1月中旬ごろまで漁獲でき、水温の低下とともに徐々に獲れなくなってきました。ワカサギはどの時期も平均的に同じくらいの量が獲れていました。

冬の洞爺湖での漁は不凍湖だからこそできる活動で、なるべく長い時間、外

で活動していたい僕にとっては冬も湖の上にいられるのはとても幸せです。

これからワカサギの採卵、6月からヒメマス漁となっていくので今年もまた組合員のみなさんと協力して漁協の活動をしていくのがとても楽しみです。引き続き、洞爺湖の生物多様性保全についての活動もしていきたいと思っています。